⑩焼きあがり

１時間ほど薪を足しながら焼き、その後は自然に火が衰えるのを待ちます。

火が衰えたら、軍手や棒などで土器を取り出し、ブロックの上で冷まします。

非常に熱いので、火傷に注意してください。

⑪出来上がり

焼きあがった土器を、説明文と一緒に展示しましょう。

※参考文献・資料

加藤晋平他　1984　縄文文化の研究　１～１０巻

小林達雄　1996　縄文人の世界　朝日選書

安田喜憲　1997　縄文文明の環境　吉川弘文館

※引用文献

いのうえせいしん　1999　縄文土器をつくろう 古代体験 BOOK　いかだ社 可児通宏　2005　縄文土器の技法　同成社

小林達雄ほか　1988　縄文土器大観　１～４巻　小学館

宮内正勝監修　2003　縄文土器を焼こう　はじまりのもの体験シリーズ⑤　リブリオ出版

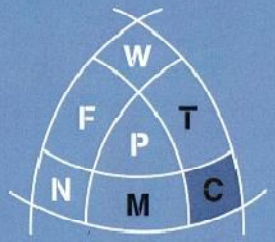
関廣　1989　縄文土器に魅せられて　講談社

縄文人の生活と土器

C1

■ 基本学習プログラム文化誌（C）

これは生産（M）と思索（T）をつなぐプログラムで、
実習にあたっては粘土、薪、ブロックなどを用意する。



服部哲則（東京学芸大学広域自然科学講座）

index

1. 土器から縄文人の生活を学びましょう
2. 土器をつくってみよう

1. 土器から縄文人の生活を学びましょう

【1】

１．はじめに

・植物と人間のかかわりを考えたとき、田畑での食用植物栽培もさることながら、森の恵みにも思いをめぐらせる。

・日本列島が形成されて１万数千年余り、今日までの「日本」の歴史のほとんどを占めるのが、縄文時代である。

・縄文人たちは、夏の雨、冬の雪によって繁茂した森の恵みに支えられ、１万年もの間縄文文化を花開かせた。そして、縄文文化を特徴付けるのが、土器である。

・ここでは、縄文文化をより身近に感じられるよう、土器作りを行うための基礎的な資料を提供したい。

▲ 世界中に広がっていった新人：国立科学博物館　http://kahaku.go.jp/special/past/japanese/ipix/1/1-14.html#

2．縄文以前

(1) 時代区分

［前期旧石器］

・猿人　400 万年前より

・氷河期　200 ～ 250 万年前より

・原人　160 万年前より

［中期旧石器］

・ネアンデルタール人　30 万年前より

［後期旧石器］

・新人 (現生人類)　3 ～ 4 万年前より

・温暖化　15,000 年前より

［新石器時代の開始］

・温暖化 (15,000 ～ 12,000 年前)

寒冷、乾燥地帯→草原、森林　豊富な食料　人口増

［寒の戻り (11,000 年前)］

・氷河から融けた真水、大量に大西洋に？

・一時的寒冷化 (1,000 年間) →食糧危機

野生種→栽培 (家畜) 種：イネ科植物の栽培

実の大型化、脱穀の容易さで選択

牛、山羊、猪などの家畜化

［農耕・牧畜 (食糧生産)］

人口の増大　5,000 年前　1 億人

(2) 気候の変化と食料

［地球規模］　氷期　氷間期

氷河期の終焉　→　温暖化　→　森林の拡大［日本列島］　乾燥　湿潤 (温暖化以上に影響)

温暖化　→海水位の上昇・暖流の活発化

→対馬暖流の日本海流入　→冬の積雪増

黒潮暖流による湿った南風→夏の多雨

落葉広葉樹 (ブナ、ナラ、クリなど)、山菜

川・湖での漁撈、

森林生息動物 (鹿・猪) の狩猟

北方型…森林の植物資源の利用　→定住

南方型…海洋性資源 (魚・貝類) の利用

▲ スダジイ

▲ ブナ

(3) 移動から定住へ

鹿児島県加世田市　栫 (かこい) ノ原遺跡

(1993 年調査)

1 万 1 千年前の桜島火山灰層以前

隆帯文土器　約 1,000 点

石族　8 点

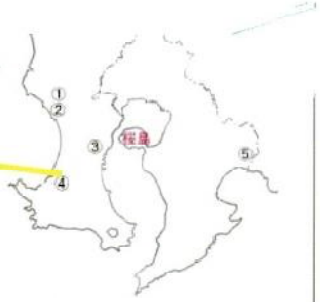
磨製・打製石斧　20 点

磨き石、石皿など

舟形の石囲い炉→　住居の立地、形が考慮されていた

→　定住

土器には炭化物の付着、二次焼成→煮炊きに使用



出典：「栫ノ原遺跡発掘調査概要」

http://www.pref.kagoshima.jp/pr/gaiyou/rekishi/genshi/kakoinohara.html

【2】

1．縄文時代とその文化～縄文時代とその背景

（1）縄文時代の範囲

［始まり］

1. 土器の出現　13,000 ～ 12,000 年前から

2. 貝塚形成　　10,000 年前から

3. 狩猟・漁労・採集の道具　8,000 年前から

［終わり］

稲作農耕と弥生文化の浸透　2,500 ～ 2,300 年前

（2）縄文時代の特質

①農耕生産物に頼らない。

狩猟・漁撈・採集（栽培→農耕ではない）を生業の基本

②身分差、階級差のない社会制度

役割分担はあった。

④土器への執着

１万年も続く共通の美意識、伝統。

土器の製作、完成品を中心とした社会組織、制度？

④文字を持たない。

土器の文様はいかに広い範囲に伝えられたか。

← 物語、絵描き歌？

⑤女性中心の社会

古代社会の基本原理→　母権性的　土偶に象徴？

⑥アニミズム

自然の力に人間を超えたものを感じ、

畏敬の念を持つ。　　宗教、呪術

⑦異文化の受け入れと融合

先進性の高い技術の習得と発展

⑧高い建築技術

巨大木柱建造物

（真脇遺跡―石川県　三内丸山遺跡―青森県―など）

（安田善憲『縄文文明の環境』による　一部変更）

2．土器と縄文人～縄文土器の基礎知識

（1）土器登場の意義

「土器は、人類が化学的変化を応用した最初の出来事である。」 G.チャイルド

粘土　→加熱→　水に不溶の物質

旧石器時代にすでにヴィーナス像

容器：獣皮の袋、木の皮を編んだ籠

焼いた粘土で容器を作る：当時のハイテク技術

石器、木器は割ったり削ったり　機能性のみ

土器は塑造形　造形に創造性が付加できる。

（2）縄文土器の来歴

登場前夜

大陸との強いつながり：細石刃文化など

幾度となく繰り返し訪れる大陸からの移住民

（多様な石器）

（3）土器の原型も伝来か？

仮説①日本列島自生説

九州を中心とした照葉広葉樹、落葉広葉樹林帯がもたらす、栗、胡桃、ドングリ類などの食料加工目的。

１４C 年代測定の結果が論拠。

仮説②大陸源流説

土器の起源は西アジア（８，０００年前？）とし、東アジアを経由し日本に伝わったとする。大陸に類似の土器を求める。

仮説③発祥多元説

西アジア、東アジアどちらも独自に土器を発明、発展させたとする。

西アジアの土器は、貯蔵用または盛り付け用　←　パン作りの技術の応用化？

縄文土器は、煮炊き用　←　来歴はいまだ不明

アメリカ先住民族に編籠に粘土を塗って整形するものあり

（4）土器による食文化の広がり

熱帯～温帯にかけて暮らす狩猟採集民食料の２/３が植物性

ただし、生で食べられるのは、栗か柔らかい果実ぐらい

山菜類：アク、エグミ

大豆：硬い、生臭い

堅果類（ドングリ、トチ）：苦味、エグミ

(5) 煮炊きすることで・・
上記の植物のアクを抜き、柔らかくして食料にできた。
貝類(縄文早期　約1万年前～)硬い殻を開ける、おいしいスープ
煮込み料理、だしを取るなど調理法が多様になった

(6) 縄文の文様
エドワード・シルベスター・モース
大森貝塚出土土器：縄目文様のある土器(cord marked pottery)
施文法は長く謎であった。
縄、筵(むしろ)、編み物、織物、笊などを押し当てる？
　→失敗
山内清男(やまのうち　すがお)がぼねを粘土板に転がすことで、何本もの平行線が刻まれることを発見。
土器文様による詳細な分類作業　→型式分類
縄文の文様は、撚った縄紐を土器表面に押し転がすことで付けられていたことを解明。

(7) 土器の様式と形式
個々の土器
他の個体と異なる特徴　　(特殊性)
共通の要素を持つまとまり　(普遍性)→型式(タイプ)
個体の特殊性は、作者個人の技量、癖、芸術性による。
個体の普遍性は、作者が所属する集団に依存する。
集団が共有するイメージ(モデル)
1集団は、複数の形式を有する
これら複数形式の組み合わせ
土器に混入される特殊材料、焼成方法など製作技法がもたらす雰囲気、効果→　様式(一様式は約160年間続いた？)

(8) 土器の発達史
①形状模倣期
草創期　(約1万2,000年前～)
方形平底土器(隅丸方形　平底)　←　あみ籠の形を模した？
円形丸底土器(砲弾形)　　←　獣皮袋の形を模した？

②土器形状確立期
早　期　(約1万年前～)
方形平底土器の消滅←　形状模倣からの脱却
撚糸文、押し型文、貝殻沈線文：地味な文様から次第に装飾性を高めていく。
施文具の発達

③発達期
前　期　(約6,000年前～)
煮炊き用深鉢に加え、盛り付け用浅鉢、貯蔵用壷など多彩な形が出現。
用途の多様化
幾何学的な装飾文様から、特別な意味を持たせたモチーフが出現
モチーフに埋められた区画

④応用期
中期から後期・晩期まで
(約5,000年前～2,500年前まで)
用途の更なる多様化
甕(かめ)棺(かん)、埋(うめ)甕(がめ)炉(ろ)、釣手土器、有孔鍔付土器、香炉形土器、異形台付土器
単純なモチーフ、同一のモチーフのみで装飾するのではなく、物語性を持たせ、特定のモチーフを人格化、神格化させた？

2. 土器を作ってみましょう

【1】

1．縄文土器の材料

・緻密で粘性の強い粘土（シルト）

・道路の切り通し、河川等の崖で地層の下の方で白い層になっていることがあります。ただし採取には、管理者、地主さんらの許可が必要です。

・授業では、東京都埋蔵文化財センターの協力で、多摩ニュータウン遺跡内の土器粘土採掘場出土の粘土を使用しました。

・関東ローム層の土（赤土）

・耕作土などの黒土の下にあります。

・陶芸用のテラコッタで代用できます。（10kg 2,100円）

・シルトが手に入らなければ、テラコッタだけでも可能です。

・砂（山砂）

・ホームセンターで売られているセメント用の砂で代用します。

2．粘土練り

（1）粘土4：土（テラコッタ）4：砂2の割合で（粘土と土の割合は1：1、砂は全体の2割程度が目安です。）

（2）土錬機に投入、機械から出てくる混ぜ合わされた粘土を、再度機械に投入するという繰り返しを10回以上行います。

（数kg程度の粘土なら手で捏ねられますが、10～20人分の粘土を捏ねるのは大変です。土器焼き講習などを行っている博物館、センターなどに相談してみてください。）

（3）最後に手で捏ねて、水分と固さを調整します。耳たぶ程度の硬さが目安です。硬すぎれば水を、柔らかすぎれば土を足して捏ねなおします。（必要であれば、土錬機に再投入します。）

（4）できあがった土器粘土は、乾かないようポリ袋に入れ密閉します。

【2】

1. 土器作り

①土器粘土の準備

竹や荷造り用PPバンドなどで編んだ網代と、土器年度約1kgを用意します。

＊荷造り用PPバンド

ストラップバンドとも

1巻き200m　800円～

100円ショップで2～3m

②底作り

直径5cmほどの粘土の円盤を作り、縁を立ち上げてお椀状のものを作ります。

③輪積み

20cmほどの粘土紐を作り、それを積み上げながら次第に土器の形を作っていきます。

写真のように、本物の土器や写真集のコピーを参考にするとよいでしょう。

④口縁部の整形と施文

口縁部の形を整え、文様を付けます。

施文方法は、末尾に紹介する文献を参考にしてください。

⑤成形完成と乾燥

出来上がったら、２週間ほど風通しの良いところで乾燥させます。乾燥が悪いと焼いたとき割れてしまします。

⑥焼成準備

土器焼きを行う地面を乾燥させるため、事前に焚火を行います。

本来は、地面を掘って土器焼き場を用意しますが、できない場合にはブロックなどで代用します。

⑦加熱乾燥

焚火のまわりに土器をおいて、さらに乾燥させます。一方からだけでなく、土器を少しずつ回してすべての面が乾燥するようにします。

⑧底の乾燥

底や口の方からも炙って、乾燥させます。

⑨焼きあげ

焚き火の中に土器を並べ、薪を乗せて一気に焼きあげます。